

発行日：2022年3月1日
発行：真宗大谷派 東京教区教化委員会内
お寺の子ども会サポートプラン
〒177-0032 東京都練馬区谷原1-3-7
☎：03-5393-0810 / FAX03-5393-0814
✉：tokyo@higashihonganji.or.jp

てらこや

スタイル



子どもは半人前？

2022年(令和4年)4月から、今まで20歳であった成人年齢が18歳に引き下げられることになりました。明治29年に成人年齢が20歳とされてから、見直されるのは約140年振りということだそうですね。

ここで成人年齢の引き下げが良いとか悪いとかいうつもりはありません。ただ、今回の件で「成人とは?」「子どもとは?」ということについて考えてみたいと思ったのです。

1. 心身が発達して一人前になった人。成年に達した人間。おとな。
 2. 子供が成長して大人になること。
- とあります。
これを成人に対して子ども(成人の対義語として未成年等

無料で本格的なWEBページが作成できるサービス
※有料プランあり

「Studio(スタジオ)」

<https://studio.design/ja>



制作に必要なコード(HTML)の知識が無くても、簡単な仕組み、操作を覚えてしまえば、無料でWEBページが制作できるサービス。無料プランでは小さな広告が入るなどの制限はあるが、無料でもほぼすべての機能が使用可能。アカウントさえ作れば誰でも使えるサービスのため、試しに使ってみるのも◎。

Googleアカウントさえあれば、簡単に申込フォームが作れる

「Googleフォーム」

<https://docs.google.com/forms/>



Googleの公式サービスである「Googleフォーム」は、企業も使用している無料の簡易フォーム。申込だけではなく、アンケート収集など様々な用途で使用が可能です。

上記サービスにご興味ございましたら、
お気軽に東京教務所(白川)までお問合せください!!

の言葉があります。ここでは子どもと表します)の立場から考えてみるとどうでしょうか。子どもは、「心身が未発達で半人前」ということです。たしかに身体は小さいし、経済的な自立といったところから見れば半人前かもしれない。しかし人間の存在から見ると、一人前も半人前もないように思うのです。先日、お寺での法要の後に3、4歳のお子さんのお母さんとお話をしたのですが、「子どもが言うことを聞かなくて困っています。してはいけないと思いつつも手を上げることもあります」と告白されたことがありました。私も9歳と7歳の子どもがおりますが、子どもが親の言うことを聞かないという問題は誰しもが通ることと思います。「通学の間だけが準備をしない」「なかなかお風呂に入らない」

子ども会を企画したい お寺大募集!

「子ども会開催や、児童教化には興味はあるけど、余裕がないな...」という方、ぜひ当プランにご相談ください。当サポートプランでは、サポートスタッフがお寺にお伺いし、企画の相談から機材の入手方法、さらにご要望があれば、子ども会当日のお手伝いまでサポートさせていただきます。

連絡先

〒177-0032
東京都練馬区谷原1-3-7
東本願寺「真宗会館」内
【お寺の子ども会
サポートプラン事務局】
担当 佐々木・白川
電話 03-5393-0810
FAX 03-5393-0814
E-Mail office@jinet

「机の上で踊りだす」等々挙げればきりがありません...

結局その時は、いろいろと話を伺ったりはしたもののうまく応えることもできなかったのですが、「決して子どもは大人よりも劣った存在ではないと思いますよ。大人からしてみれば危なっかしくて、何をしているんだと思う時も多いと思います。一人の人間として見てあげてください」といったことを最後に話した気がします。

「成人」と「子ども」。そこには存在としての上下関係や優劣、一人前や半人前はないのではないのでしょうか。体の大小、経験の多少、年齢の差があるだけでみんな同じ人間だと思います。

お寺の子ども会サポートプラン
橋本 至

お寺の子ども会サポートプラン 2021年事業報告

お寺の子ども会サポートプラン研修会

2021年12月21日（火）真宗会館に於いて、お寺の子ども会研修会を開催いたしました。講師は東京教務所嘱託の白川 亮氏。現代の情報発信に必要不可欠であるWEBページを無料ホームページ制作サービスを使用し、制作体験を行いました。

本研修会では、所属組である東京2組若手の学びの会である「二間会（にもんかい）」主催の子ども会で使用しているホームページ制作サービス「STUDIO」を使った子ども会簡易WEBページの制作体験という内容のもと、非常に楽しく参加させていただきました。WEBページの制作というと、非常に複雑で難しいイメージでしたが、体験してみると意外に簡単で、利便さや奥深さを感じるとともに、広報の大切さを教えていただいたと思います。

現在の情報化社会のまっただ中で、スマートフォンなどの情報端末は非常に身近にあり、また無くてはならないものになっています。イベントなどの参加申込の際、FAXでの申込などなり、様々な催しでの申込手段は、ほぼ全てがオンライン化し

開催報告

東京2組 専念寺 田澤 廣明

お寺の子ども会サポートプラン意見交換会

2021年10月28日（木）オンライン会議システム「Zoom」を使用し、お寺の子ども会意見交換会を開催いたしました。現在のコロナ禍でも児童教化の場を開いている団体、組のお話をうかがい、その後は自身の環境にあった子ども会の形を模索することを目的として、参加者一同でグループワークを行いました。

開催報告

東京3組 福成寺 西尾 朋央

2021年10月28日に「意見交換会」がオンラインシステム「Zoom」にて開催されました。まずは体験談ということで、東京教区児童教化連盟と東京2組からそれぞれコロナ禍での活動をご報告いただきました。どこもコロナの影響で思うような活動は出来ていない現状ですが、その中で出来ること、また新たに覚えてきたことがあると感じました。

続いてグループワークを行いました。まず参加者の皆さんに「これから子ども会でもやりたいこと」を複数考えていただき、それをビンゴ形式で発表してもらいました。そして多かつた回答に対し、「今すぐにも出来る・これからゆっくり」と「準備が多い・準備が少ない」ということをみんなで話しながらワークシートに位置づけしていききました。

「これから子ども会でもやりたいこと」では「念珠作り」「紙芝居」「演劇」や「キャンプ」など宿泊系のもの、また「餅つき」「流しそうめん」の食事系など、本当に多くのワードが出てきました。

そこで出た言葉、例えば「念珠作り」なら、それは「今すぐできることなのか?」「コロナがおさまってからでないと出来ないことなのか?」「準備は多いのか?」「少ない準備で出来るのか?」をそれぞれ4段階のどこに位置するのかを参加者全員で話し合いをして位置を決めます。それぞれのワードがどこに位置するかをみんなで話し合うことで、人の意見を聞きながら客観的に「子ども会」を見直すことができました。「演劇をしたい」と聞くと、私は「衣装から何か準備が大変だ、人数も集めないといけないしコロナでは無理だ」と思ったのですが、「演劇」といった人は「集まった子どもが自由に表現してほしいのです」とおっしゃいました。

できています。

申込方法だけに限らず、子ども会の案内というのは、来られる子どもたちというより、子どもたちの親世代に情報を発信していくことが非常に大切であり、こういったツールを活用していくことが、今後の児童教化に必要不可欠であると感じています。また、そういった分野に明るい人が団体の中に一人いるだけでも、児童教化の可能性がどんどん広がっていくように思えます。

今回の研修会で学んだホームページ制作は、子ども会に限らず、お寺の諸行事の案内やお寺のホームページ作成などにも利用したり、今後ますます目を向けていかなければならない大切な取り組みになってくるように思います。もちろん聞いただけで終わるのではなく、どれだけ実際に使っているかが関わらせてくるわけではあります。大切な視座をいただいた研修会でした。

した。一人でも構わない。衣装もいらない。そうするとシートの位置は「今すぐにも」「準備は少ない」方へ位置しました。コロナ禍において、「子ども会はこうあるべき」という考え方で開催を躊躇するのではなく、そのお寺に合った柔軟な視座をもって開催していくことが問われているのではないかと感じます。その意味で今回のワークで色んな視点を教えてもらいました。

